



卒業式 贈った言葉 贈られた言葉

3月11日（金）、102名の3年生が詫間中学校を巣立っていきました。新型コロナウイルス感染症対策のため、3年生と保護者のみの卒業式となり、1・2年生は教室でオンライン配信による参加となりました。このような状況の中でも、3年生の思いが込められた卒業記念合唱「群青」や、卒業生退場時の1・2年生が心を込めた歌「時を越えて」など、可能な範囲で卒業生と在校生が交流することもできました。楽しいこと、嬉しいこと、苦しいこと、悲しいこと、それらを乗り越えて、たくましく成長した先輩の姿は立派でした。卒業式で、みなさんの代表が先輩に贈った言葉、先輩から贈られた言葉を紹介します。

<送辞（抜粋）>



私たちは先輩方とともに、このコロナ禍を精一杯生きてきました。思い描いたとおりの中学校生活とは違っていただけど、限られた自由の中だからこそ実感できたことがあります。それは「当たり前だと思っていた何気ない日常のありがたさ」「仲間とともに笑い合える時間の素晴らしさ」です。そして何より「どんなに辛く苦しい状況であっても、ともに力を合わせることで乗り越えられるということ」です。（中略）

これから私たちは、先輩方が築いてこられた伝統を受け継ぎ、教えていただいた多くのことを胸に、詫間中学校をよりいっそう素晴らしい学校にしていきます。

<答辞（抜粋）>



この3年間を振り返ると、「できないこと」に苦しみ、悩んだことが多くあったように思います。しかし、どんな時も、自分たちにできることを考え、みんなで協力しながら乗り越え、成長してきました。だからこそ、この3年間が強く大きな思い出として、私たちの胸に刻まれているのだと思います。これからも多くの「できないこと」に直面し、くじけそうになるかもしれませんが、中学校での学びを支えに、諦めることなく挑戦していこうと思います。

在校生の皆さんへ伝えたいことがあります。これから再び行事が中止になったり、臨時休業になったりするかもしれません。「当たり前のように行われていたこと」というのは大切に

かけがえのないものです。みなさんは今、学校生活をどう過ごしていますか。友人との何気ない会話や授業、行事などを大切にしながら、一瞬一瞬がかけがえのない思い出となるように学校生活を楽しんでください。頑張る皆さんを私たちはいつまでも応援しています。（中略）

3年生のみんなへ。私にとってこの3年間は、あっという間に過ぎてしまいました。みんなと過ごした日々は、私の中で一番楽しく、かけがえのないものでした。新型コロナウイルスによる休業明け、みんなに会うことができたとき、何よりも嬉しかった。みんなとこうしていられるのも今日が最後というのは、嘘であってほしい。でも、これからはそれぞれの道を歩んでいかなければなりません。中には、会うことが難しくなる人もいるでしょう。それでも、私たちが友だちであるということに変わりはなく、思い出が消えてしまうことありません。何があったとしても、私はみんなとの思い出、そしてこれまで一緒に頑張ってきた友というかけがえのない存在を忘れることはありません。またいつか、みんなと「つよし」を合言葉に、集まれる日が来ることを信じています。この3年間、本当にありがとう。